

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-274629

(43)公開日 平成9年(1997)10月21日

(51)Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

G 0 6 F 17/60
19/00

G 0 6 F 15/21
15/24

3 3 0

審査請求 有 請求項の数 9 O L (全 11 頁)

(21)出願番号 特願平8-84095

(22)出願日 平成8年(1996)4月5日

(71)出願人 000006013

三菱電機株式会社

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号

(72)発明者 後藤 祐子

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号 三

菱電機株式会社内

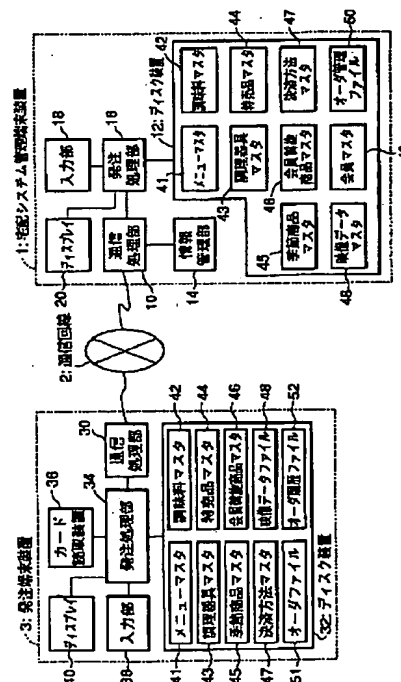
(74)代理人 弁理士 吉田 研二 (外2名)

(54)【発明の名称】 材料発注システム

(57)【要約】

【課題】 メニューを指定することで材料を発注する際にも発注者の希望が生かされかつ簡便な発注を実現することができる材料発注システムを提供する。

【解決手段】 発注端末装置3は、宅配システム管理端末装置1から送られてくる、メニュー毎に調理する際に必要な1名分の材料、数量、価格、調味料、調理器具等を格納するメニューマスタ41、調味料マスタ42、調理器具マスタ43、特売品マスタ44、季節商品マスタ45、会員斡旋商品マスタ46等の各種マスタファイルと、過去のオーダーデータを記録したオーダー履歴ファイル52とを有し、全メニューの一覧又は選択された特売品等を使用するメニューの一覧の中から選択されたメニューで使用する食材、調味料、調理器具及びそれらの人数分の数量を表示画面上で修正させ、その修正した内容で発注を行う。修正させる元データは、メニューマスタ41又はオーダー履歴ファイル52から読み出し表示する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 メニューと人数とを指定することによって調理に使用する材料の注文を行う材料発注システムにおいて、

メニュー毎に使用する材料及びその数量が格納されているメニューマスタファイルと、

メニュー一覧の中から選択されたメニューに使用される材料を人数に応じた数量とともに表示する材料表示手段と、

前記材料表示手段により表示された内容の修正を必要に応じて行いオーダーデータを作成する材料修正手段と、作成された前記オーダーデータにより発注を行う発注手段と、

を有することを特徴とする材料発注システム。

【請求項2】 発注した前記オーダーデータを記録するオーダー履歴記憶手段を有し、

前記材料表示手段は、選択されたメニューに係るオーダーデータが前記オーダー履歴記憶手段に記憶されているときには、その記憶された前記オーダーデータを表示することを特徴とする請求項1記載の材料発注システム。

【請求項3】 前記材料は、食材、調味料及び調理器具を含むことを特徴とする請求項1記載の材料発注システム。

【請求項4】 メニューで使用する材料に関する商品特別情報が格納されている商品特別情報マスタファイルと、

前記商品特別情報を表示する商品特別情報表示手段と、前記商品特別情報表示手段により表示された材料のうち選択された材料を使用するメニューの一覧を表示する材料メニュー一覧表示手段と、
を有することを特徴とする請求項1記載の材料発注システム。

【請求項5】 前記商品特別情報は、特売品に関する情報であることを特徴とする請求項4記載の材料発注システム。

【請求項6】 前記商品特別情報は、季節商品に関する情報であることを特徴とする請求項4記載の材料発注システム。

【請求項7】 前記商品特別情報は、会員向商品に関する情報であることを特徴とする請求項4記載の材料発注システム。

【請求項8】 各メニューの調理例の映像データが格納されている映像データ格納手段と、
前記映像データ格納手段の中から選択されたメニューの調理例の映像データを読み出し表示する調理例表示手段と、
を有することを特徴とする請求項1記載の材料発注システム。

【請求項9】 発注に対する決済方法を指定する決済方法指定手段を有し、

前記発注手段は、前記オーダーデータに指定した決済方法を付加して発注を行うことを特徴とする請求項1記載の材料発注システム。

【発明の詳細な説明】**【0001】**

【発明の属する技術分野】本発明は材料発注システム、特にメニューに基づいて人数分の材料をオーダーする材料発注システムにおける材料の指定方法に関する。

【0002】

【従来の技術】近年において、家庭から郵便、電話あるいはパソコン通信等により食品等の発注を行うホームショッピングシステムは、一般的なサービスとなってきている。なかでも宅配サービス業者が提供するメニューの中からいずれかを選択することで、その選択したメニューに必要な材料を自分で考え買い物をしなくても一式揃えて宅配してくれるサービスがある。このメニュー単位に発注を行う宅配サービスは、予め各家庭にメニュー（レシピ）を送付しておいて、その中から選んだメニューと人数とを指定して発注してもらうことで、その人数分の材料を指定日時までに宅配するものである。各家庭においては、この宅配された材料を使用することにより、買い物にいく手間が省け、また材料を買い忘れたりすることがなくなる。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来においては、宅配サービス業者のみがメニューの材料の構成に関するデータを持っていて、発注者がメニューと人数のみを指定して発注を行っているため、調理に必要な材料の増減を調整することはできなかった。例えば、焼き肉の材料を発注する場合、好きな種類の肉を増やしたいとか、野菜を多めにしたいとか、発注者の好みに応じたオーダーをすることはできなかった。

【0004】また、調理に必要な材料のうちいくつかは買い置きがしてあり別途買い揃える必要がない場合でも、調理に必要な材料は全てパッケージに含まれているため無条件に宅配されてきてしまう。例えば、カレーライスオーダーする場合、じゃがいもは別の調理で使った残りがあるから改めて用意する必要がないような場合でも、カレーライスに必要な数量のじゃがいもは無条件に宅配されてくる。日持ちのよい食品であればよいが、これが生鮮食品で腐りやすいものであれば無駄になってしまう可能性がある。

【0005】このように、従来においては、オーダーに含まれる材料の追加、削除及び数量の増減を行うための手段が発注者側に提供されていなかったため、発注者の希望する材料及びその数量が宅配されてくるとは限らなかった。

【0006】また、宅配された材料で調理するために、調味料や調理器具を必要に応じて揃えなければならない場合がある。

【0007】本発明は以上のような問題を解決するためになされたものであり、その目的は、メニューを指定することで材料を発注する際にも発注者の希望が生かされかつ簡便な発注を実現することができる材料発注システムを提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】以上のような目的を達成するために、本発明に係る材料発注システムは、メニューと人数とを指定することによって調理に使用する材料の注文を行う材料発注システムにおいて、メニュー毎に使用する材料及びその数量が格納されているメニューマスタファイルと、メニュー一覧の中から選択されたメニューに使用される材料を人数に応じた数量とともに表示する材料表示手段と、前記材料表示手段により表示された内容の修正を必要に応じて行いオーダーデータを作成する材料修正手段と、作成された前記オーダーデータにより発注を行う発注手段とを有することを特徴とする。

【0009】また、発注した前記オーダーデータを記録するオーダー履歴記憶手段を有し、前記材料表示手段は、選択されたメニューに係るオーダーデータが前記オーダー履歴記憶手段に記憶されているときには、その記憶された前記オーダーデータを表示することを特徴とする。

【0010】また、前記材料は、食材、調味料及び調理器具を含むことを特徴とする。

【0011】また、メニューで使用する材料に関する商品特別情報が格納されている商品特別情報マスタファイルと、前記商品特別情報を表示する商品特別情報表示手段と、前記商品特別情報表示手段により表示された材料のうち選択された材料を使用するメニューの一覧を表示する材料メニュー一覧表示手段とを有することを特徴とする。

【0012】更にまた、前記商品特別情報は、特売品に関する情報であることを特徴とする。

【0013】更にまた、前記商品特別情報は、季節商品に関する情報であることを特徴とする。

【0014】更にまた、前記商品特別情報は、会員向商品に関する情報であることを特徴とする。

【0015】また、各メニューの調理例の映像データが格納されている映像データ格納手段と、前記映像データ格納手段の中から選択されたメニューの調理例の映像データを読み出し表示する調理例表示手段とを有することを特徴とする。

【0016】また、発注に対する決済方法を指定する決済方法指定手段を有し、前記発注手段は、前記オーダーデータに指定した決済方法を付加して発注を行うことを特徴とする。

【0017】

【発明の実施の形態】以下、図面に基づいて、本発明の好適な実施の形態について説明する。

【0018】図1は、本発明に係る材料発注システムの

一実施の形態を宅配サービスに適用した場合における全体構成図である。本実施の形態においては、発注者が各家庭の消費者である場合で説明する。また、サービス提供者側においては、オーダーによる材料の仕入れ、仕分け、発送、また集金する業務が発生するが、本実施の形態においては、必要な業務は一つのサービス提供者が全て行うものとする。この宅配サービスシステムは、サービス提供者に設置された宅配システム管理端末装置1と、通信回線2を介して宅配システム管理端末装置1に接続され、各家庭に設置された発注端末装置3とで構成される。図1においては、発注端末装置3を1台のみ示している。各端末装置1、3は、取り扱う情報量、システム環境に応じて適切な性能を有するパーソナルコンピュータ等一般的な計算機で構築される。

【0019】宅配システム管理端末装置（以下、「システム端末」という）1は、通信回線2と接続し各発注端末装置3と通信を行う通信処理手段としての通信処理部10と、提供する宅配サービスに必要な各種マスタファイル、データファイルを記憶する記憶手段としてのディスク装置12と、マスタファイルの更新などのファイル管理並びに必要な情報を各発注端末装置3に送信する情報管理手段としての情報管理部14と、各家庭からのオーダーを受け付け出荷指示の作成や売掛管理等を行う発注管理手段としての発注管理部16と、キーボードやマウス等で構成され各種情報の入力や処理の指示を行うための入力手段としての入力部18と、各種情報を表示する表示手段としてのディスプレイ20とで構成される。ディスク装置12は、メニューマスタ41、調味料マスタ42、調理器具マスタ43、特売品マスタ44、季節商品マスタ45、会員幹旋商品マスタ46、決済方法マスタ47、映像データファイル48、会員マスタ49及びオーダー管理ファイル50を記憶する。このうち、特売品マスタ44、季節商品マスタ45及び会員幹旋商品マスタ46は、商品特別情報を格納する商品特別情報マスタファイルである。

【0020】メニューマスタ41は、本システムで提供するメニューの一覧が登録されたマスタファイルである。図2に示したように、メニュー毎に、調理する際に必要な1名分の材料、数量、価格、調味料、調理器具、また後述する特売品と関連づける特売コード、後述する季節商品と関連づける季節商品コード、カロリー、各メニューを検索する際に用いるキーワード等を設定する。調味料マスタ42は、サービス提供者が取り扱う全ての調味料が登録されたマスタファイルである。図3に示したように、調味料毎に、メーカー名、数量及び価格を設定する。調理器具マスタ43は、サービス提供者が取り扱う全ての調理器具が登録されたマスタファイルである。図4に示したように、調理器具毎に、メーカー名、サイズ、価格及びこの調理器具を使用するメニューを設定する。特売品マスタ44は、ある期間において特売を行う

材料が登録されたマスタファイルである。図5に示したように、特売品毎に、識別するための特売コード、商品（材料）名、特売する単位である数量、その価格及び特売する期間を設定する。季節商品マスタ45は、各季節における推奨品が登録されたマスタファイルである。図6に示したように、季節商品毎に、識別するための季節コード、商品（材料）名、販売単位である数量及びその価格を設定する。会員幹旋商品マスタ46は、本システムの会員のために用意された材料が登録されたマスタファイルである。図7に示したように、商品名毎に、識別するための商品コード、商品（材料）名、販売単位である数量及びその価格を設定する。決済方法マスタ47は、本システムにおいて可能な発注者の支払方法を登録したマスタファイルである。図8に示したように、決済方法、利用機関及び支払い回数、期限等決済方法に応じて必要な情報を設定する。映像データファイル48は、図9に示したように、メニューを視覚的に表示するために各メニューの調理例の映像データを格納する映像データ格納手段である。会員マスタ49は、本システムの会員に関するマスタファイルであり、図10に示したように、会員番号、氏名（店舗名）、電話番号及び住所を設定し、各会員における特記事項があれば備考欄に登録する。上記各マスタファイルは、サービス提供者によって適宜更新される。すなわち、情報管理部14は、会員マスタ49以外のマスタファイル41～48が更新されると、その度に通信処理部10、通信回線2を介して各発注端末装置3にその内容を送る。

【0021】オーダ管理ファイル50は、発注者からのオーダの履歴を記録する履歴ファイルであり、図11に示したように、発注毎に、受注したオーダを識別するための受注番号、受注した日時、会員番号や電話番号等発注者を識別する発注者番号、そして、オーダファイルの内容であるメニュー名称、人数、材料、調味料、調理器具を含む注文内容及び決済方法を記録する。

【0022】一方、材料発注システムを構築する発注端末装置3は、通信回線2と接続しシステム端末1と通信を行う通信処理手段としての通信処理部30と、宅配サービスを利用するために必要な各種マスタファイル、データファイルを記憶する記憶手段としてのディスク装置32と、各種マスタファイル等に基づいて発注処理を行う発注処理手段としての発注処理部34と、会員カードあるいはクレジットカード等のカード読取装置36と、キーボードやマウス等で構成され各種情報の入力や処理の指示を行うための入力手段としての入力部38と、各種情報を表示する表示手段としてのディスプレイ40とで構成される。詳細は後述するが、本実施の形態における発注処理部34は、各種情報をディスプレイ40に表示させることで、メニューに使用される材料を人数に応じた数量とともに表示する材料表示手段、表示した内容の修正を行いオーダデータを作成する材料修正手段、作

成したオーダデータにより発注を行う発注手段、商品特別情報を表示する商品特別情報表示手段、表示した材料のうち選択された材料を使用するメニューの一覧を表示する材料メニュー一覧表示手段、メニューの調理例の映像データを読み出し表示する調理例表示手段及び発注に対する決済方法を指定する決済方法指定手段として動作する。ディスク装置32は、メニューマスタ41、調味料マスタ42、調理器具マスタ43、特売品マスタ44、季節商品マスタ45、会員幹旋商品マスタ46、決済方法マスタ47、映像データファイル48、オーダファイル51及びオーダ履歴ファイル52を記憶する。

【0023】このうち、メニューマスタ41、調味料マスタ42、調理器具マスタ43、特売品マスタ44、季節商品マスタ45、会員幹旋商品マスタ46、決済方法マスタ47及び映像データファイル48は、システム端末1から送られてくるマスタファイルであり、全く同じ内容のファイルである。発注端末装置3において後に説明する発注処理を行うためには、各種マスタファイル41～48をシステム端末1から事前に受け取り、ディスク装置32に格納しておく必要がある。オーダファイル51は、今回の発注分の注文内容を含むオーダデータを一時記憶するファイルである。図12に示したように、オーダするメニュー名称、人数、そして、材料、調味料、調理器具とそれぞれの数量、価格等を含む注文内容及び決済方法を記憶する。オーダ履歴ファイル52は、発注に使用したオーダデータを逐次記録しておくオーダ履歴記憶手段であり、図13に示したようにオーダファイルに発注日時を付加したデータ構造を持つ。

【0024】本実施の形態において特徴的なことは、以上の構成を設けたことで発注端末装置3においてメニューに基づいてオーダする際にメニューを構成する材料の構成並びに数量を変更できるようにしたことである。これにより、同じメニューでも各家庭における好みに応じた食材または数量により料理をすることができる。また、すでに家庭にある材料と重複する材料は、オーダから削除することができるので無駄な材料を注文しなくすみ、材料を無駄にすることがなくなる。

【0025】次に、本実施の形態における発注端末装置3の動作について図14に示したフローチャートを用いて説明する。

【0026】まず、発注端末装置3の利用者が会員であるかどうかを判別する（ステップ101）。発注端末装置3は、カード読取装置36から会員カードを読み取ることによって会員であることを認識することができる（ステップ102）。ここで、本システムのメインメニューを表示し、ここから一つのメニューを選択することになる（ステップ103）。このメニュー選択処理について図15に示した表示画面例の遷移図を用いて説明する。

【0027】メインメニュー画面には、メニューを一覧

表示させる「メニュー」、会員のみが選択でき、会員向けの情報を表示させる「会員」、特売品を表示する「特売品」及び季節商品を表示する「季節商品」の選択項目が表示される。「メニュー」を選択すると、メニューマスタ41に登録されたメニュー名が一覧表示され、この中からオーダするメニューを選択させる。発注者が何をオーダするか決めている場合には「メニュー」を選択してメニューを指定すればよい。なお、項目の選択は、マウス等を用いて選択させる。「会員」を選択すると、会員幹旋商品マスタ46に記憶された情報を所定の表示形式で表示する。「特売品」を選択すると、特売品マスタ44に記憶された情報を所定の表示形式で表示する。料理するものを特に決めていないとき、お買い得の食材を使って料理するときなどに選択する。「季節商品」を選択すると、季節商品マスタ45に記憶された情報を所定の表示形式で表示する。料理するものを特に決めてなくて季節の食材を利用して料理したいときなどに選択する。「メニュー」以外を選択したときに表示される会員向画面、季節商品画面及び特売品画面は、商品名、数量及び価格など商品特別情報をほぼ同じ形式で表示する。この表示された材料の中から料理に使用したい材料を選択すると、その材料（食材）を使ったメニューの一覧が表示される。図15においては、例えば特売品画面から“牛肉ブロック”を選択すると、“牛肉ブロック”を使ってできる調理の一覧が表示される。これは、メニューマスタ41の「材料」を検索することで、メニュー名を読み出し一覧表示することができる。あるいは、メニューマスタ41に「キーワード」として登録しておいてもよい。ここで、“カレーライス”の材料をオーダする場合は、表示画面の中から“カレーライス”を選択する。一方、「メニュー」を選択したときは、一覧表示の中から“カレーライス”を選択する。このとき、人数も指定する。すなわち、メニューの材料を表示する際にメニュー名と人数とを入力することで、各メニューの材料を表示する発注材料表示画面が表示される。なお、本実施の形態においては、メニューの調理例を映像データファイル48に記憶しているので、画面上の「調理例」を選択することで、選択対象のメニューが調理されたときの出来上がりの状態を見ることができる。

【0028】以上のようにして、メニューが決まると、そのメニューの調理に使用する材料を表示する（ステップ107）。ここでいう調理に使用する材料とは、調理される食材を含むのはいうまでもなく、調味料及び調理に使用する調理器具も含むことにする。調味料を切らしたときや特別な調味料や調理器具を使う料理であっても食材とともに発注することができるので、注文した食材を確実に調理することができる。

【0029】メニューの材料を表示する際、過去にそのメニューについてオーダしたことがなければ（ステップ104）、メニューマスタ41から該当するメニューの

データを読み出し表示する（ステップ105）。すなわち、メニューマスタ41に設定されている材料、調味料、調理器具とそれぞれの数量を表示する。過去のオーダの有無は、オーダ履歴ファイル52を検索することで知ることができる。メニューマスタ41には、一人分の数量で設定されているので、人数によって増やさなければならない食材、調味料は、指定人数によって各材料の数量を算出し表示することになる。

【0030】過去にそのメニューについてオーダしたことがあれば、オーダ履歴ファイル51から該当するデータを読み出し表示する（ステップ105）。複数回オーダしていれば、最新データを取り出す。もちろん、最新だけではなく複数の中から選択して取り出すためのオーダデータにマークをするなどしてもよい。通常、各家庭において調理する食材や量は、メニューによってだいたい決まっており、再度オーダするときも同じ材料及び量でオーダすることが多いと考えられる。従って、このように過去にしたオーダデータを表示することで、同じメニューについてオーダする場合には、次に説明するオーダ修正処理をほとんど行わないですむようになる。

【0031】選択したメニューに関する材料及び数量を表示すると（ステップ107）、この発注材料表示画面の内容通りのオーダをしてよいかどうかを確認し、修正が必要であれば、この画面上に表示されたオーダデータに対して修正処理を行う（ステップ109）。修正する内容としては、材料の追加、削除、変更及び数量の変更がある。このうち、食材の追加、削除等の修正や食材、調味料、調理器具の数量の変更は、画面上において修正を行う。図15の例においては、“にんじん”と“カレールー”とを削除し、“牛肉ブロック”の量を“400g”から“500g”に変更した。なお、本実施の形態における各表示手段、修正手段は、CPUと一般的な画面管理のアプリケーションとで構成されており、キーボードやマウス等を用いて一般的な方法で修正を行うことができる。調味料あるいは調理器具の追加や変更をしたときには、基本的に画面上の「調味料」あるいは「調理器具」を選択する。基本的というのは、タイプ入力してもよいからである。「調味料」を選択すると、図示していないが調味料マスタ42に記憶された情報を所定の表示形式で表示する。これにより、メニューマスタ41に設定されている以外の調味料の追加やメーカーの変更を行うことができる。「調理器具」を選択すると、図示していないが調理器具マスタ43に記憶された情報を所定の表示形式で表示する。これにより、調理器具の追加やサイズの変更、またメーカーの変更を行うことができる。そして、各画面から選択することによって選択した調味料あるいは調理器具は、発注材料表示画面に追加表示される。

【0032】このように、メニューマスタ41に基づいて食材のみならず調味料なども変更することができるの

で、基本的な各メニューの味のみならず各家庭の好みの材料及び量でかつ好みの味となる調理を作ることができる。また、このように各家庭の味で注文できるだけでなく、例えば、今回は野菜を多めにしようとか、今回はチキンカレーにしようとか、いろいろアレンジして食材をオーダーすることもできる。また、必要な食材の一部が家庭にある場合、その食材をオーダーから削除することもできるので、家庭にある材料を有効に使うことができる。なお、本実施の形態においては、発注材料表示画面に最初から食材のみならずメニューマスタ 4 1 に設定された調味料や調理器具をも表示するようにしたが、最初は食材だけ表示し、選択することによって調味料等を追加表示できるようにしてもよい。例えば、最初は食材だけを表示し、「調味料」あるいは「調理器具」を選択することによってメニューマスタ 4 1 に設定された調味料あるいは調理器具を表示する。そして、調味料等の変更を行いたい場合には更に「調味料」あるいは「調理器具」を選択することによって、メニューマスタ 4 1 に設定されている以外の調味料等に変更できるようにしてもよい。本実施の形態においては、材料を修正可能としたことを特徴としており、どのように材料を表示させるかは単なる設計事項である。

【0033】本実施の形態においては、選択したメニューに関する材料及び数量を表示する際、過去に同じメニューで発注していれば、そのときのオーダーデータをオーダー履歴ファイル 5 2 から読み出して表示し、その表示した内容に対して修正を行えるようにしたので、メニューマスタ 4 1 から材料を読み出し表示し、毎回似たような修正をさせる必要がなくなり非常に便利である。

【0034】上記オーダー修正処理において、オーダーする内容を決めると、次に決済方法を指定する（ステップ 110）。これは、決済方法マスタ 4 7 に登録されており画面表示された中から選択する。支払金額は、発注材料表示画面上の材料に基づいて計算されている。例えば、クレジットカードにより支払いを行うのであれば、カード会社、カード番号、支払い回数等を共に入力する。あるいは、カード読取装置 3 6 でカードを読み取ることもできる。なお、過去の決済方法は、オーダー履歴ファイル 5 1 に記録されているので、これを初期値としてもよい。

【0035】決済方法を指定し、オーダーを行うために必要な情報の入力を終了すると、発注を行うためのオーダーファイル 5 1 を作成しディスク装置 3 2 に一時記憶する（ステップ 111）。オーダーファイル 5 1 には、図 12 に例示したように、メニュー名、人数、発注材料表示画面から入力設定した材料に関する情報、具体的には材料名、各材料の数量、調味料、調理器具であれば更にメーカー名、サイズそして決済方法から構成されるオーダーデータが格納される。そして、このオーダーファイル 5 1 を通信回線 2 を介してシステム端末 1 に送信することで、発

注を完了する（ステップ 112）。

【0036】システム端末 1 は、受信したオーダーファイルの注文内容に基づき、必要な材料を揃えて出荷指示を行い、指定日時までに注文された材料を発注者に発送することになる。また、指定された決済方法に従い集金を行う。

【0037】以上のように、本実施の形態においては、各種マスタファイルを発注者に提供し、表示したマスタファイルの内容を修正してオーダーできるようにした。これにより、基本的なメニューの味のみならず同じメニューでも各家庭における好みに応じた材料または数量により料理をすることができる。特に、オーダーした内容をオーダー履歴ファイル 5 2 に残しておくことで、メニューマスタ 4 1 に設定された基本的な材料構成とは異なる家庭毎の材料構成にオーダーの度に毎回修正し直さなくてもよい。また、すでに家庭にある材料と重複する材料は、オーダーから削除することができるので無駄な材料を注文しなくてすみ、すでにある材料を無駄なく使用することができる。

【0038】更に、特売品や季節商品などの情報を提供し、かつこれらの情報から調理できるメニューを選択できるようにしたので、旬に富んだあるいは割安なメニューを選択することができる。

【0039】このように、本実施の形態は、各家庭においてメニューを構成する材料の構成及び数量を自由に変更できるようにしたことを特徴としている。また、この特徴事項に付随して調理器具を同時にオーダーできたり、特売品などの情報を提供し、かつ特売品からもメニューを選択しオーダーできるようにしたなど便利な機能を設けたことを特徴としている。従って、この特徴事項を発揮できるものであれば、様々なシステム形態を考慮することができ、上記例に示した装置構成に特定されるものではない。例えば、ディスク構成は 1 台である必要はなく性能に応じてマスタファイルやデータファイルを分散させてもよい。また、通信処理部 10、30 を実現する装置も様々であり、また回線接続されていなくても無線通信や CD-ROM 等の媒体の受け渡しでも本発明は実現可能である。この場合、通信処理部 10、30 は不要となる。更に、発注端末装置 3 を携帯可能な端末とし、これを持って営業を行うことにも応用できる。

【0040】また、上記実施の形態においては、発注端末装置 3 を家庭に設置した場合で説明したが、飲食店や料理教室などでも利用することができる。また、宅配システムでなくても、販売店に設置して特売品や季節商品の情報や各メニューにおけるレシピの情報等の提供を行うサービスとして利用することも可能である。

【0041】

【発明の効果】第 1 の発明によれば、メニューマスタファイルを発注者に提供し、メニューマスタファイルに含まれるメニューの材料を表示して、その表示された内容

に対して修正することができるようにした。つまり、あるメニューに対して発注する材料の構成及び各材料の数量を変更可能とした。これにより、同じメニューでも各家庭における好みに応じた材料または数量により料理をすることが可能となる。また、すでに家庭にある材料と重複する材料は、オーダから削除することができるので無駄な材料を注文しなくて済み、すでにある材料を無駄なく使用することができる。

【0042】第2の発明によれば、過去にオーダした内容を記録しておくようにしたので、同じメニューの材料を再度オーダする際にも過去にオーダしたときと同じ材料の構成及びその数量で発注を行うことができる。あるいは、修正作業の軽減を図ることができる。すなわち、通常、同じ発注者、例えば各家庭において調理する食材や量は、メニューによってだいたい決まっており、同じメニューを再度オーダするときも同じ材料及び量でオーダすることが多いと考えられる。従って、同じメニューについてオーダする場合、過去にしたオーダデータを利用することで、メニューマスタファイルの内容を表示して毎回同じような修正をする必要がなく簡便である。

【0043】第3の発明によれば、調味料や調理器具をも発注の対象としたので、食材のみならず調理に使用する調味料や調理器具を希望の数量で発注することができる。

【0044】第4乃至第7の発明によれば、特別な材料を抽出して表示し、その材料を使用した旬のメニュー、お買い得な材料によるメニューのみを表示するようにしたので、有効なガイダンスを提供することができ、メニューの選択も便利に行うことができる。

【0045】第8の発明によれば、選択したメニューの調理例を視覚的に表示することが可能となる。

【0046】第9の発明によれば、発注とともに決済方法を指定することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明に係る材料発注システムの一実施の形態を示した全体構成図である。

【図2】 本実施の形態において使用するメニューマスタの内容例を示した図である。

【図3】 本実施の形態において使用する調味料マスタの内容例を示した図である。

【図4】 本実施の形態において使用する調理器具マスタの内容例を示した図である。

【図5】 本実施の形態において使用する特売品マスタの内容例を示した図である。

【図6】 本実施の形態において使用する季節商品マスタの内容例を示した図である。

【図7】 本実施の形態において使用する会員幹旋商品マスタの内容例を示した図である。

【図8】 本実施の形態において使用する決済方法マスタの内容例を示した図である。

【図9】 本実施の形態において使用する映像データファイルのデータ構成例を示した図である。

【図10】 本実施の形態において使用する会員マスタのデータ構成例を示した図である。

【図11】 本実施の形態において使用するオーダ管理ファイルのデータ構成例を示した図である。

【図12】 本実施の形態において作成するオーダファイルの内容例を示した図である。

【図13】 本実施の形態において使用するオーダ履歴ファイルの内容例を示した図である。

【図14】 本実施の形態における発注端末装置の処理を示したフローチャートである。

【図15】 本実施の形態におけるメニュー選択処理において表示される画面の遷移を表した図である。

【符号の説明】

1 宅配システム管理端末装置、2 通信回線、3 発注端末装置、10、30 通信処理部、12、32 ディスク装置、14 情報管理部、16 発注管理部、18、38 入力部、20、40 ディスプレイ、34 発注処理部、36 カード読取装置、41 メニューマスタ、42 調味料マスタ、43 調理器具マスタ、44 特売品マスタ、45 季節商品マスタ、46 会員幹旋商品マスタ、47 決済方法マスタ、48 映像データファイル、49 会員マスタ、50 オーダ管理ファイル、51 オーダファイル、52 オーダ履歴ファイル。

【図3】

調味料マスタ

名 称	メーカー名	数 量	価 格
マヨネーズ	A 社	200g	130円
		500g	300
	B 社	300g	150
		500g	240
ケチャップ			

【図4】

調理器具マスタ

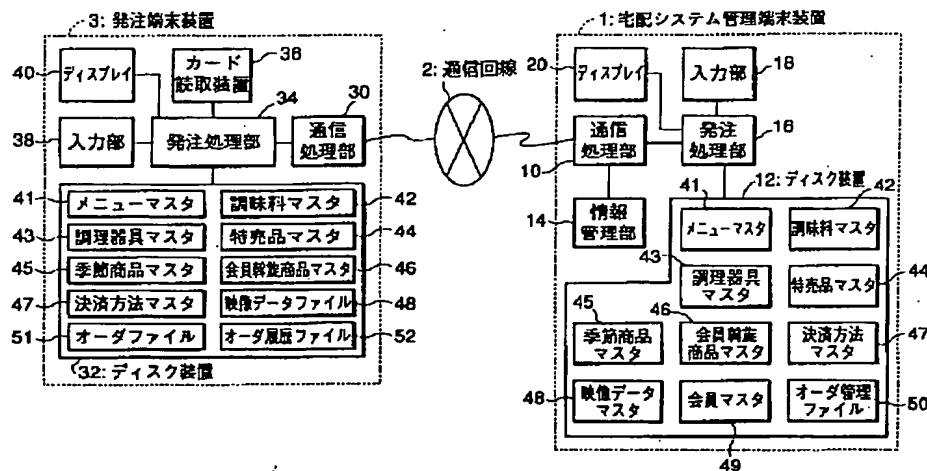
名 称	メーカー名	サイズ	価 格	使用メニュー
ソースパン	C 社	2 L	1000円	ラーメン
	C 社	4 L	1800	カレーライス、クリームシチュー、..
フライパン	D 社	12 cm	600	
!	!	!	!	

【図9】

映像データファイル

メニュー名	映像データ
-------	-------

【図1】



【図2】

メニューマスタ

メニュー名	材料/数量/価格	調味料	調理器具	特売コード	季節コード	カロリー	キーワード
カレーライス	牛肉ブロック 100g 128円 にんじん 1/4本 25円	カレー 塩 こしょう	4L ソース パン	牛肉ブロック A01			
カキフライ	牡蠣 50g 180円 卵 1個 22円	天ぷら 塩	天ぷら 鍋		牡蠣 B03		
ミートソース							

【図5】

特売品マスタ

特売コード	商品(材料)名	数量	価格	期間
A01	牛肉ブロック	100g	98円	96/10/1~96/10/31
A02	玉ねぎ	1袋(4個)	128	96/10/1~96/10/7
⋮				

【図6】

季節商品マスタ

季節コード	商品(材料)名	数量	価格
B01	まつたけ	1本	2500円
B02	栗	100g	200
B03	牡蠣	50g	150
⋮			

【図7】

会員特売商品マスタ

商品コード	商品(材料)名	数量	価格
C01	牛肉ブロック	100g	95円
C02	さんま	1尾	90
⋮			

【図8】

決済方法マスタ

方 法	利用機関	回数、期限等
前払い	AB社 DE社 甲乙	
クレジット		
銀行引落		
店頭入金		

【図10】

会員マスタ

会員番号	氏名(店名)	電話番号	住所	備考

【図11】

オーダー管理ファイル

受注番号	日時	発注者番号	メニュー名称	注文内容	決済方法
				人数、材料、調味料、調理器具	

オーダーファイル

【図12】

オーダーファイル

メニュー名	人数	材料/数量			調味料/メーカー名/数量	調理器具/メーカー名/サイズ	決済方法
カレーライス	4名	牛肉ブロック 500g	じゃがいも 1袋(4個)	玉ねぎ 1袋(6個)			クレジット DE社 1回払い

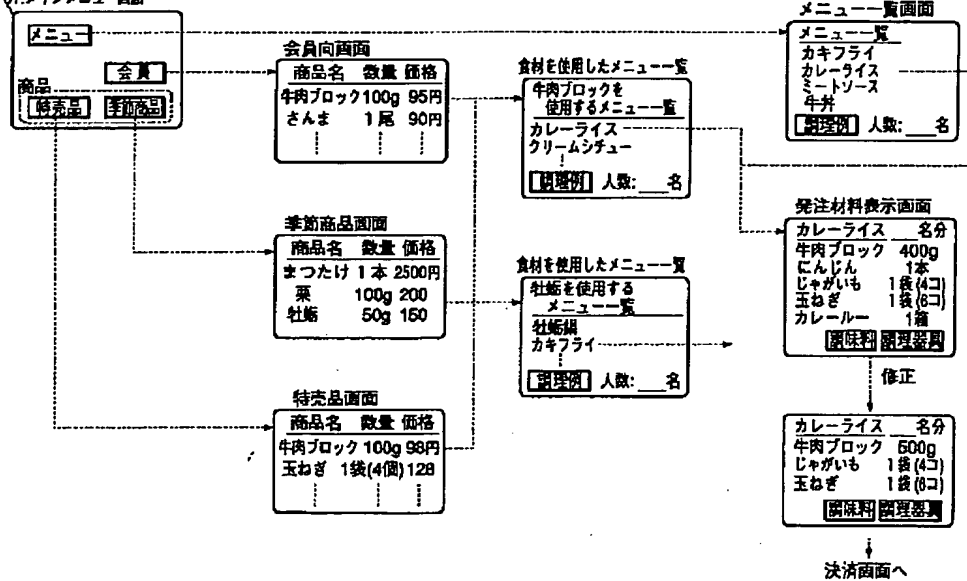
【図13】

オーダー履歴ファイル

日時	メニュー名称	人数	材料/数量			調味料/メーカー名/数量	調理器具/メーカー名/サイズ	決済方法
96/10/4 10:30	カレーライス	4名	牛肉ブロック 500g	じゃがいも 1袋(4個)	玉ねぎ 1袋(5個)			クレジット DE社 1回払い
...

【図15】

61:メインメニュー画面



【図14】

